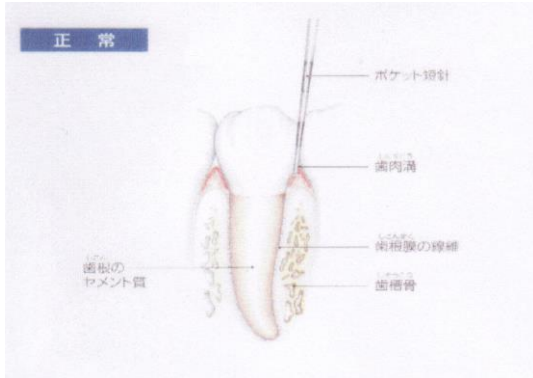


歯周病の検査について



歯周病とは歯の周りの組織の病気です。
 歯垢（細菌）が原因で起こります。
 歯垢がやがて歯石となり、歯石から骨を溶かす毒素を発生させます。
 骨を溶かす過程で口臭がしたり、噛むと痛みを感じたり、膿が出てきたり等症状は様々です。

あなたのお口のなかで現在歯周病が進行しているかどうか？

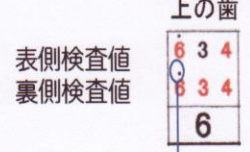
進行の程度を歯肉溝と呼ばれる歯の周りの溝に、器具を入れて測定します。

歯根面に歯石が付いていないか、歯肉からの出血（炎症）がないか？

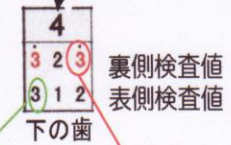
歯を支える骨（歯槽骨）が溶けてないか？
 等をレントゲンだけでは把握できない所を検査します。

歯周病の検査結果は下記の様に表示されます。

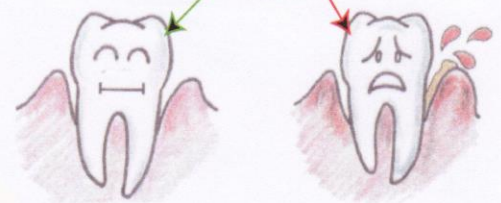
右上	真中																左上																						
	6	3	6	3	4	2	3	3	2	3	3	1	3	3	2	3	3	1	3	3	2	3	2	4	5	2	4	4	6	5									
	5	4	5	6	3	4	4	3	4	3	2	2	2	3	3	2	3	3	2	3	3	3	4	4	2	3	3	3	3	2	4	5	3	5					
	7	6	6	6	5	4	5	4	3	2	1	1	1	2	3	4	5	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7						
	6	6	6	3	3	3	2	4	3	2	3	3	2	3	3	2	3	3	1	3	3	1	3	3	3	3	2	3	3	2	3	4	2	4	4	3	3		
	6	2	4	3	2	3	3	2	3	3	1	3	3	1	3	3	1	3	3	3	1	3	3	3	1	3	3	1	2	3	2	3	3	2	3	3	3	4	
右下																	左下																						



1~3mmの測定値：健康
 4以上の測定値：不健康

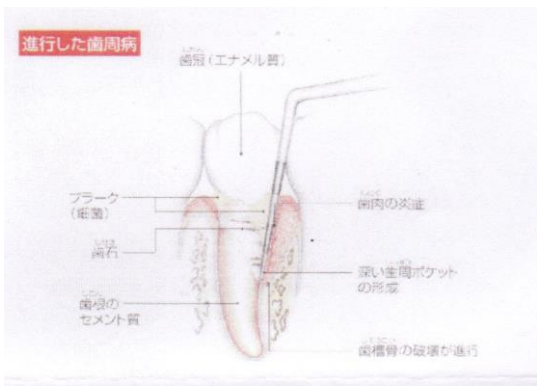


歯石が付いている部位



出血なし
(炎症なし)

出血有り
(炎症有り)



歯周病 編

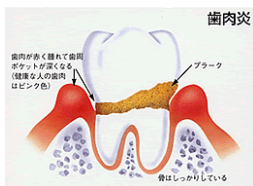
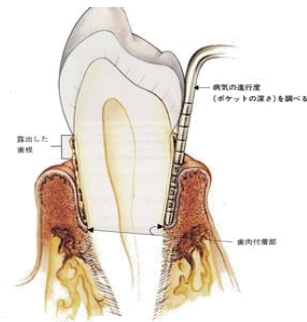


定期的に検査および処置した方が効果的です。



歯周病とは、「歯の周囲の組織の病気」です。では歯の周囲の組織とは何か？まず目で見えるのは**歯ぐき**です。しかし歯は歯ぐきの肉に植わっているではありません。歯ぐきの厚みは2~3ミリしかなく、歯はその下の顎の骨の中に植わっています。ですから強い力に耐えられるのです。歯周病はこの歯ぐきと歯を支えている骨がダメージを受ける病気です。簡単に言うと、**歯と歯ぐきの境目のプラークの中の細菌が出す毒素で骨が溶かされていく病気**です。

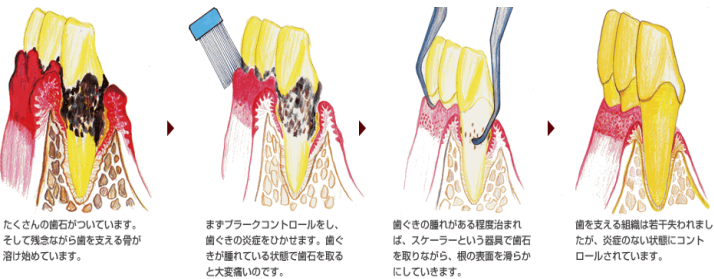
- ・歯の周囲の歯ぐきには、歯を取り囲むようにポケット(溝)があります。このポケットは健康な歯ぐきにもあり、その深さの正常値は3ミリです。このポケットは一種のバリアーの役目を果たしており、体にとって必要なものです。このポケットが深くなるのが、歯周病の進行をあらわしています。つまり、**歯周病にならないようにするには、このポケットの底までしっかりとプラークコントロール**する必要があるわけです。



- ・まず、ポケットの中の細菌が毒素を出し歯ぐきが腫れます。すると、このポケットの深さが見かけ上深くなります。3ミリといっても溝の奥までプラークコントロールするのは難しく、深くなればなるほど一層難しくなります。そして細菌が増殖しどんどん毒素を出し、もっと歯ぐきが腫れます。これが**歯肉炎(初期の歯周病)**です。



- ・この状態が長く続くと、ポケットの底の細菌が、歯の周囲の骨に向かって毒素を放出しはじめ、骨がどんどん溶かされていきます。これが**歯周病(歯周炎)**です。いったん溶けた骨がもとに戻ることはありません。ですから、それ以上進行しないようにプラークコントロール・ケアが必要なのです。



- ・唾液中のカルシウムなどの石になる成分が沈着して、プラークが石に変化したものが**歯石**です。歯石自体は、病原性ではありません。歯石の表面はざらざらしており、小さな穴があいた軽石の様な構造になっています。この穴に細菌がもぐりこんでしまえば、いくらブラシをしても取ることはできません。歯石は細菌のアパートのようになります。居心地のいい住処を見つけた細菌は活発に増殖し毒素を出し始めます。そして、細菌の出す毒素で歯石に近い骨が溶けていき、さらに骨がなくなったスペースをめがけて歯石が蓄積されていくのです。ですから、**歯の表面を滑らかにしてプラークが付着しにくいようにし、プラークコントロールがしやすい環境をつくる事**が必要なのです。



近藤歯科医院 電話 079-282-1570

治療の進め方

主訴である部位、緊急性のある部位は早めに治療をした方がよろしいかと思われます。しかし、修復(削る・詰める・被せる)事は、まず歯を支える歯周組織をある程度整えてから進める方がよろしいかと思われます。家を建てる時でも地盤を整理しますよね・・・

歯周治療

診査・診断(口腔内写真・模型)

① 歯周組織検査(ポケットの深さ)

スケーリング

(縁上歯石の除去・クリーニングPMTC)

※ ブラッシング指導

② 歯周組織検査(ポケットの深さ)

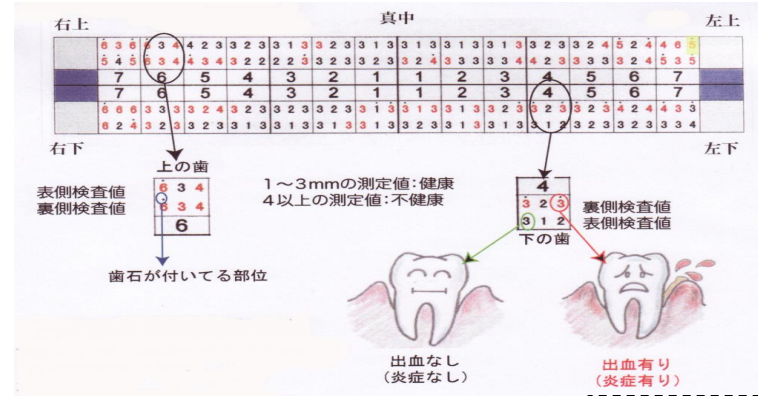
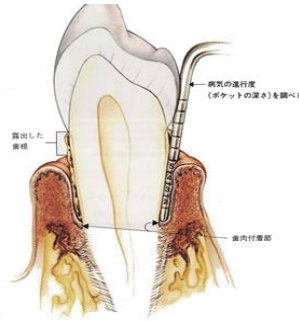
SRP: スケーリング・ルートプレーニング
(縁下歯石の除去・薬物療法)

③ 歯周組織検査(ポケットの深さ)

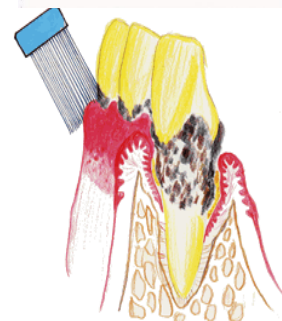
再SRP 歯周外科手術

④ 歯周組織検査 歯周組織検査

定期健診



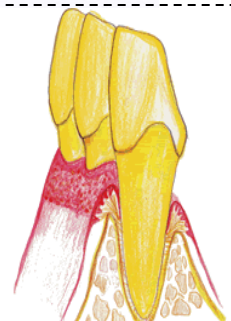
たくさんの歯石がついています。そして残念ながら歯を支える骨が溶け始めています。



まずプラークコントロールをし、歯ぐきの炎症をひかせます。歯ぐきが腫れている状態で歯石を取ると大変痛いのです。



歯ぐきの腫れがある程度治まれば、スケーラーという器具で歯石を取りながら、根の表面を滑らかにしていきます。



歯を支える組織は若干失われましたが、炎症のない状態にコントロールされています。

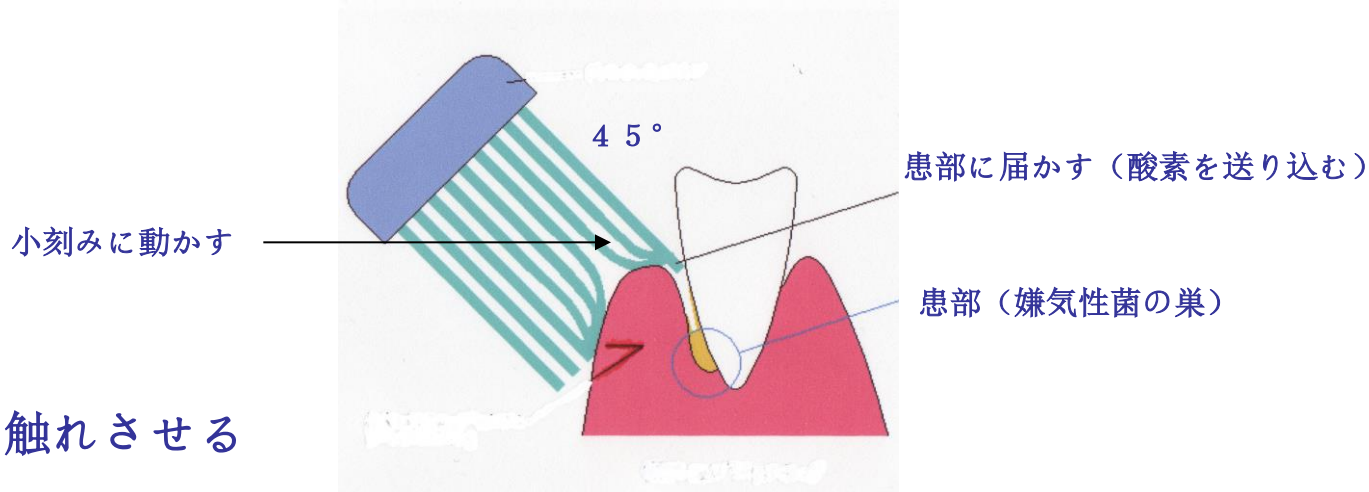
以降に修復(削る・詰める・被せる)という治療を行った方が、適切、迅速で効果的です。

1 患部を洗浄する

歯周病とは歯と歯茎にできる歯周ポケット内部に歯周病菌が繁殖することで起こる歯茎の病気です。つまり、この菌の除去ができれば治療に向かうはずなのですが、ここから菌を除去することは非常に困難です。

通常、怪我をした場合には患部をきれいに洗い流し、消毒します。放置すると雑菌が繁殖し、膿んでくるからです。

歯周病もこれと同じなのです。歯周ポケットの奥にブラシが届かないため、歯周病菌がどんどんと繁殖し、膿んでくるわけです。



2 患部を酸素に触れさせる

患部をブラッシング、洗浄し、物理的な刺激により歯垢を除去することはとても大切ですが、もう一つ大切なことがあります。それは歯周ポケット内部に空気を送り込む事です。

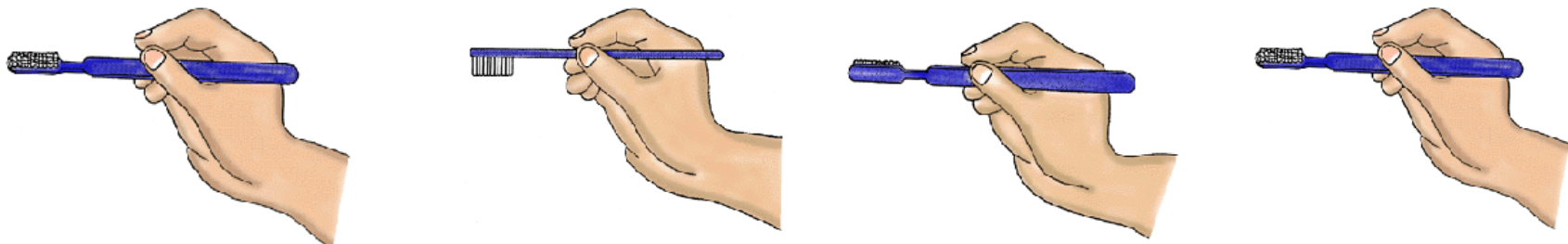
歯周病菌は嫌気性の菌ですから患部を空気（酸素）にさらすことで繁殖の**抑制効果**が得られます。

3 患部の血行を促進する

さらに**患部のマッサージ**が大切です。血行が悪くなることで歯槽骨（歯を支持している骨）の溶解を引き起こし、これが最終的に歯茎がやせる事につながります。

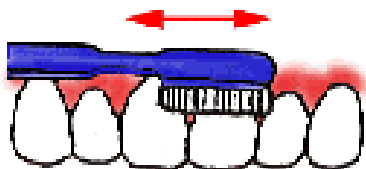
歯ブラシの持ち方

ペンを持つように三本の指で持つと手や腕の疲れが少なく、長い時間磨くことができます。この方法でみがけば、強くこすりすぎることが少なくなります。

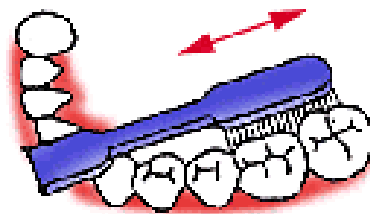
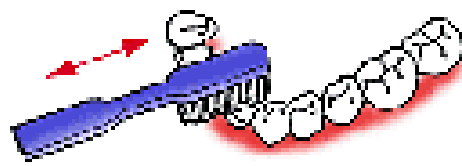


歯の磨き方

ブラッシングの運動を大きくすると、横磨きになりますから小さい運動（毛先が動かないように）磨きます。



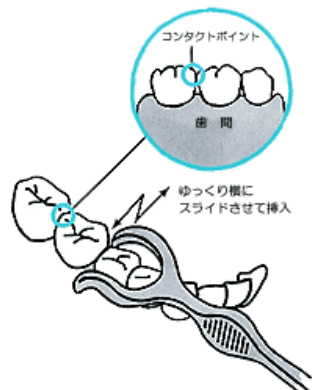
歯ブラシの毛先を歯面に45°に当て小刻みに往復運動を行う



前歯部は歯ブラシを縦にいれ1歯ずつ小刻みに磨く
臼歯部は小刻みに往復運動を行う。

☆ 一度に2~3本の歯に歯ブラシを当て、少なくとも10回以上動かすことが、望ましいでしょう。

デンタルフロス



コンタクトポイントを通過させた後、隣り合った歯面の片方にデンタルフロスを押し付けるようにしながら上下に動かし、フロスでプラークをこすり取ります。ヌルヌルした感じがギシギシした感じになるまで続けたほうが良いでしょう。

